

2023年度

シラバス

学校法人湘央学園



沖縄アカデミー専門学校

1 人間と社会

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の理解（尊厳と自立）		授業の種類 講 義		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	学年 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに人間の尊厳や人権・権利擁護や自立について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 人間の尊厳と人権・福祉理念 2 自立のあり方</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに人間の尊厳や人権・権利擁護や自立の考え方を理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 人間の尊厳と利用者主体 3 人権思想と潮流とその具現化 4 人権や尊厳に関する日本の諸規定 5 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷・・・人は人をどう援助しようとしてきたか 6 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷・・・戦後の新たな福祉のあり方への模索 7 人権尊重と権利擁護 8 介護保険法における尊厳と自立 9 自立の概念と多様性 10 自立とは 11 介護を必要とする人々の自立と自立支援 12 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立を考える 13 利用者の主体性を大切 14 利用者の自立支援について 15 その他、まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座1 第2版 人間の理解			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の理解 (人間関係)		授業の種類 講 義	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (4)	学年 1 年	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーション、さらに介護実践に必要なチームマネジメントの考え方について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 人間関係とコミュニケーション 2 介護実践におけるチームマネジメント</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>人間の尊厳の保持や自立の考え方や対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーション、さらに介護実践に必要なチームマネジメントの考え方を理解する。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		<p>16 介護現場で求められるチームマネジメント</p> <p>17 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み</p> <p>18 ケアを展開するためのチームマネジメント</p> <p>19 チームケアの展開するためのマネジメント</p> <p>20 チームの力を最大化するためのマネジメント</p> <p>21 介護福祉職のキャリアと求められる実践力</p> <p>22 介護福祉職としてのキャリアデザイン</p> <p>23 介護福祉職のキャリア支援・開発</p> <p>24 自己研鑽に必要な姿勢</p> <p>25 介護サービスを支える組織構造</p> <p>26 介護サービスを支える組織の機能と役割</p> <p>27 介護サービスを支える組織の管理</p> <p>28 スーパービジョンの機能について理解する</p> <p>29 その他</p> <p>30 まとめ</p>	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新 介護福祉士養成講座1 第2版</p> <p style="text-align: center;">人間の理解</p>		<p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 現代社会	授業の種類 講 義	授業担当者（実務経験/福祉施設勤務 他）	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2）	学年 1 年	必修・選択 選 択
[授業の目的・ねらい] 現代における社会情勢（介護を含む）を理解する事により、これからの介護のあり方を考える。			
[授業全体の内容の概要] 身近に起こっている問題を講義及びグループワークの中から解決策を考える。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 社会人として、そして専門職である介護福祉士として、現代の社会状勢を見つめ理解出来る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <ol style="list-style-type: none"> 1 将来の介護福祉士に望まれていること 2 税の意義と役割について 3 高齢者等における悪徳商法について 4 現代医療と福祉とのかかわり 5 人口と寿命 6 こどもの貧困について 7 犯罪と自己防衛について 8 交通事故と交通マナーについて 9 防火訓練、火災への心構えと現状 10 ICTと介護 11 きちんと考えたいお金のこと 12 自由課題研究1（グループワーク） 13 自由課題研究2（グループワーク） 14 自由課題研究3（グループワーク） 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] プリント		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) O A 演習		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/企業勤務)	
授業の回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (1)	学年 1 年	必修・選択 選 択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>福祉の現場での O A 機器の基本的知識、技術を身につける</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 O A 機器の基本的知識を身につける 2 O A 機器の基本的操作を身につける</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>O A 機器の基本的知識と技術を習得する</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 オリエンテーション、学習の意義</p> <p>2 O A 機器の基本装置について (専門用語を含む)</p> <p>3 O A 機器の基本装置について (専門用語を含む)</p> <p>4 キーボードの配列と指の分担</p> <p>5 キーボードの配列と指の分担</p> <p>6 インタネット (検索の仕方・メールの仕方等)</p> <p>7 インタネット (検索の仕方・メールの仕方等)</p> <p>8 O A 機器の活用法 (ワードの基本操作について)</p> <p>9 ワードの基本操作 (文章作成・ポスター作成等)</p> <p>10 ワードの基本操作 (文章作成・ポスター作成等)</p> <p>11 O A 機器の活用法 (エクセルの基本操作について)</p> <p>12 エクセルの基本操作 (文章作成・ポスター作成等)</p> <p>13 エクセルの基本操作 (文章作成・ポスター作成等)</p> <p>14 O A 機器の活用法 (パワーポイントの基本操作について)</p> <p>15 パワーポイントの基本操作 (文章作成・ポスター作成等)</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
Windows8対応 30時間でマスター Office 2013			筆記・実技試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) レクリエーション理論と実践		授業の種類 演 習	授業担当者 (実務経験/教育関連勤務)
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2)	学年 1 年	必修・選択 選 択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーションの社会的意義を理解し、実践援助能力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーション支援、およびレクリエーション・インストラクターの役割を理解する。 2 楽しさを通じた対象者の心の元気と地域の絆を理解する。 3 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論・プログラムの立案。 4 実践援助 (レクリエーション支援の方法・活動の習得・支援の実施) <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>社会的意義と役割の理解を行い、プログラムの実施と評価及び改善が出来る。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・学習の意義 2 レクリエーションとレクリエーション・インストラクター (レクリエーション概論) 3 良好な集団作りの方法1 (アイスブレイキング) 4 良好な集団作りの理論 5 良好な集団作りの方法2 (アイスブレイキング) 6 心の元気づくりと地域のきずな 7 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ1 (ホスピタリティ) 8 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ2 (ホスピタリティ) 9 コミュニケーションと信頼関係づくり理論 10 自主的、主体的に楽しむ力を高める理論 11 レクリエーション活動の習得1 12 リスクマネジメント 13 レクリエーション支援の実施1 (チャレンジ・ザ・ゲーム) 14 レクリエーション支援の実施2 (チャレンジ・ザ・ゲーム) 15 モデル・プログラムの習得1 16 モデル・プログラムの習得2 17 レクリエーション活動の習得2 			
[使用テキスト・参考文献] 「楽しさをとおした心の元気づくり」		[単位認定の方法及び基準] 筆記・実技試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授業のタイトル (科目名) レクリエーション理論と実践		授業の種類 演習	授業担当者 (実務経験/教育関連勤務)	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2)	学年 1年	必修・選択 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーションの社会的意義を理解し、実践援助能力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーション支援、およびレクリエーション・インストラクターの役割を理解する。 2 楽しさを通じた対象者の心の元気と地域の絆を理解する。 3 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論・プログラムの立案。 4 実践援助 (レクリエーション支援の方法・活動の習得・支援の実施) <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>社会的意義と役割の理解を行い、プログラムの実施と評価及び改善が出来る。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 18 レクリエーション活動の習得3 19 レクリエーション活動の習得4 20 レクリエーション活動の習得5 21 レクリエーション活動の習得6 22 レクリエーション活動の習得7 23 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法1 24 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法2 25 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法3 26 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法4 27 プログラムの立案1 28 プログラムの立案2 29 プログラムの立案3 (アイスブレイキング) 30 レクリエーション活動の習得8 (プログラムの実際) 				
[使用テキスト・参考文献] 「楽しさをとおした心の元気づくり」		[単位認定の方法及び基準] 筆記・実技試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活技術マナー		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/企業勤務)	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1)	学年 1年		必修・選択 選 択	
<p>[授業の目的・ねらい] 社会人としてのマナー及び言葉の使い方を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会人としての対人マナー</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 社会人としてのマナー及び対人関係での正しい言葉の使い方が出来る。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会におけるマナーとは 2 身近にある現代社会におけるマナー違反とは 3 身近にある現代社会におけるマナー違反と対応策 4 社会人としての身だしなみ 5 社会人として正しい挨拶の仕方 6 正しい言葉づかい 7 電話の対応 8 はがきの書き方 9 来客対応の基本 10 訪問のマナー 11 履歴書の書き方 12 模擬面接Ⅰ 13 模擬面接Ⅱ 14 模擬面接Ⅲ 15 まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] プリント			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

2 介 護

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I	授業の種類 講 義	授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 4 5 回	時間数（単位数） 9 0 時間（6）	学年 1 年	必修・選択 必 修
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。			
〔授業全体の内容の概要〕 1 介護福祉の基本となる理念 2 介護福祉士の役割と機能 3 介護福祉士の倫理 4 自立に向けた介護			
〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕 1 介護福祉士の基本的理念を理解する 2 介護福祉士の活動の場と役割を理解する 3 自立支援と介護予防を理解する			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 1 オリエンテーション、学習の意義 16 医療的ケア 2 介護の成り立ち 17 人生の最終段階の支援 3 介護福祉を取り巻く状況 18 災害時の支援 4 介護福祉の歴史 19 介護福祉士に求められる役割とその養成 5 介護福祉の歴史 20 介護福祉士の活動する場の理解 6 介護福祉の歴史 21 介護福祉士の活動する場の理解 7 介護福祉の歴史 22 介護福祉士の活動する場の理解 8 介護福祉の歴史 23 介護福祉士の活動する場の理解 9 介護福祉の歴史 24 介護福祉士の活動する場の理解 10 介護福祉の基本理念とは 25 介護福祉士の活動する場の理解 11 尊厳を支える介護 26 介護福祉士の活動する場の理解 12 社会福祉士及び介護福祉士法 27 介護福祉士の活動する場の理解 13 社会福祉士及び介護福祉士法 28 介護福祉士の活動する場と役割 14 地域包括ケアシステム 29 介護福祉士を支える団体 15 介護予防 30 介護福祉士を支える団体			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新 第2版 介護福祉士養成講座 介護の基本 I		〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I	授業の種類 講 義	授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）																					
授業の回数 4 5 回	時間数（単位数） 9 0 時間（6）	学年 1 年	必修・選択 必 修																				
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護福祉とは</td> <td style="width: 50%;">2 介護福祉士に役割と機能</td> </tr> <tr> <td>3 介護福祉士の倫理</td> <td>4 自立に向けた介護福祉のあり方</td> </tr> </table> <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士の基本的理念を理解する 2 介護福祉士の活動の場と役割を理解する 3 自立支援と介護予防を理解する 				1 介護福祉とは	2 介護福祉士に役割と機能	3 介護福祉士の倫理	4 自立に向けた介護福祉のあり方																
1 介護福祉とは	2 介護福祉士に役割と機能																						
3 介護福祉士の倫理	4 自立に向けた介護福祉のあり方																						
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">31 介護実践における倫理</td> <td style="width: 50%;">41 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割</td> </tr> <tr> <td>32 介護実践における倫理</td> <td>42 リハビリテーションの理念</td> </tr> <tr> <td>33 倫理的判断が必要な事例</td> <td>43 介護予防の概要</td> </tr> <tr> <td>34 倫理的判断が必要な事例</td> <td>44 高齢者の身体特性と介護予防</td> </tr> <tr> <td>35 日本介護福祉士会の倫理綱領</td> <td>45 自立支援と介護予防</td> </tr> <tr> <td>36 介護福祉士における自立支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>37 介護福祉士における自立支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>38 ICF の考え方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>39 リハビリテーションとは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40 リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価</td> <td></td> </tr> </table>				31 介護実践における倫理	41 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	32 介護実践における倫理	42 リハビリテーションの理念	33 倫理的判断が必要な事例	43 介護予防の概要	34 倫理的判断が必要な事例	44 高齢者の身体特性と介護予防	35 日本介護福祉士会の倫理綱領	45 自立支援と介護予防	36 介護福祉士における自立支援		37 介護福祉士における自立支援		38 ICF の考え方		39 リハビリテーションとは		40 リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価	
31 介護実践における倫理	41 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割																						
32 介護実践における倫理	42 リハビリテーションの理念																						
33 倫理的判断が必要な事例	43 介護予防の概要																						
34 倫理的判断が必要な事例	44 高齢者の身体特性と介護予防																						
35 日本介護福祉士会の倫理綱領	45 自立支援と介護予防																						
36 介護福祉士における自立支援																							
37 介護福祉士における自立支援																							
38 ICF の考え方																							
39 リハビリテーションとは																							
40 リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価																							
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>最新 第2版 介護福祉士養成講座 介護の基本 I</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60 点以上を単位認定とする。</p>																					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ (生活の理解)	授業の種類 講 義	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 4 5 回	時間数 (単位数) 9 0 時間 (6)	学年 2 年	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 「介護を必要とする人」が主人公(利用者主体)であることを学び、その人らしい生活を目指す介護の支援者として各制度の理解、ひとりひとりの価値観について、生きてきた背景のあり方の理解を深め、日本の高齢者・障害者の現状と課題を理解する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1 介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4 協働する多職種の機能と役割 5 介護従事者の安全			
[授業終了時の達成課題 (達成目標)] 自立(律)とは何かを考え、人間と社会の領域で学んだ「尊厳」の保持について必要とされた背景についての理解、人間の多様性・複雑性の理解から全人的ケアの必要性を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 オリエンテーション、学習の意義 2 私たちの生活の理解(生活とは何か、生活にとって大切な要素、生活の特性) 3 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること 4 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし 5 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 6 「その人らしさ」とは何か(背景・介護福祉における活用・生活ニーズの理解・個々の生活ニーズ) 7 生活のしづらさについて考える 8 生活を支えるフォーマルサービス(介護保険制度、障害者総合支援法)インフォーマルサービス 9 地域連携の意義と目的、地域連携にかかわる機関の理解 10 利用者を取り巻く地域連携の実際 11 高齢者や障がい者のおでかけサポートプランの作成			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ (多職種連携)	授業の種類 講 義	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 4 5 回	時間数 (単位数) 9 0 時間 (6)	学年 2 年	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 利用者主体のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する授業とする。			
[授業全体の内容の概要] 1 介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4 協働する多職種の機能と役割 5 介護従事者の安全			
[授業修了時の達成課題 (達成目標)] 医療・保健・福祉の他の職種との連携の必要性を理解し、介護福祉士が介護現場において提供する介護の専門性のレベルをあげる必要性が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 12 多職種連携・協働を養成する社会の動き 13 多職種連携・協働を阻むもの 14 多職種連携・協働の効果 15 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 16 多職種連携・協働のためのチームづくり 17 多様な視点と受容を必要とする協働 18 多職種協働を成功させるための介護技術と知識 19 多職種行動とホスピタリティ的視点 20 多職種協働に求められるコミュニケーション能力 21 保健・医療・福祉職の役割と機能(他職種の専門的役割と機能) 22 専門職連携実践とは何か 23 多職種における地域での連携・協働 24 自立支援介護における多職種連携の実際			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ （介護における安全とリスクマネジメント）	授業の種類 講 義	授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 4 5 回	時間数（単位数） 9 0 時間（6）	学年 2 年	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 「介護を必要としている人」の安全な暮らしができるためにリスクマネジメントの理解を深めることにより、介護における安全確保のための安全概念、観察・予測分析、利用者に合った介護技術の展開が理解できるようにする学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1 介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4 協働する多職種の機能と役割 5 介護従事者の安全			
[授業修了時の達成課題（達成目標）] リスクマネジメント(予測・予防)についての予防活動だけではなく、事故や災害が起こってしまったらその被害が拡大しないようにする対応策の理解ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 25 介護福祉士の責務と安全の確保(介護の場におけるセーフティマネジメント) 26 利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える 27 尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント 28 ルールや約束事を守ることの重要性 29 福祉サービスに求められる安全・安心 30 事故防止のための対策 31 リスクマネジメントの組織体制 32 介護福祉職に必要な感染に関する知識 33 標準予防策(スタンダード・プリコーション)とは何か 34 施設内の整理整頓および清潔保持 35 他職種との連携の必要性 36 感染発生時の対応 37 安全な薬物療法を支える視点・連携 38 高齢者や障がい者のおでかけサポートプランを作成			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ （介護従事者の安全）		授業の種類 講 義		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 4 5 回	時間数（単位数） 9 0 時間（6）	学年 2 年		必修・選択 必 修	
[授業の目的・ねらい] 介護従事者は、豊かな人間性や優しさを発揮するにも心身の健康が必須であり、そのためにも健康で安全に働けることが重要。そのために介護従事者が健康を守るための法制度や、健康管理について理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 1 介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4 協働する多職種の機能と役割 5 介護従事者の安全					
[授業修了時の達成課題（達成目標）] 介護従事者が陥りやすい健康問題を学ぶことにより、介護従事者の健康の重要性を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 39 健康管理の意義と目的 40 働く人の健康や生活を守る法制度 41 介護労働の特性と健康問題 42 介護に従事する人の健康問題 43 健康に働くための健康管理 44 介護従事者にとってのこころの健康問題 45 介護従事者の労働災害					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I		授業の種類 講 義		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	学年 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護におけるコミュニケーションの基礎的知識と技法について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護におけるコミュニケーションの基本 2 コミュニケーションの基本 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、その基礎的知識と技法を理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 介護におけるコミュニケーションの意義と目的 3 介護におけるコミュニケーションの展開過程 4 介護におけるコミュニケーションの対象 5 援助関係とコミュニケーション 6 傾聴・受容・共感について 7 コミュニケーションにおける距離 8 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 9 目的別のコミュニケーション技術 10 動機づけ 11 意思決定を支援するためのコミュニケーション技術 12 集団でコミュニケーションをはかる意義 13 集団のとは 14 集団の種類 15 その他、まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座5 第2版 コミュニケーション技術			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 演 習	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1)	学年 2年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象者の特性に応じたコミュニケーション 2 家族とのコミュニケーション 2 介護におけるチームのコミュニケーション <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>利用者やその家族にあったコミュニケーション方法や介護におけるチームケアのコミュニケーションの必要性と実際について理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 コミュニケーションの障害とは 3 アセスメントについて 4 コミュニケーション支援の基本 5 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 6 家族との関係づくり 7 家族への助言・指導・調整 8 家族関係と介護ストレスの対応 9 チームのコミュニケーションの意義と目的 10 報告、連絡、相談の意義 11 記録の意義と目的 12 会議・議事進行・説明の技術 13 事例検討に関する技術 14 情報の活用と管理のための技術 15 その他、まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 5 第2版 コミュニケーション技術</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)																					
授業の回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4)	学年 1 年	必修・選択 必 修																						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を習得することが目的である</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 生活支援 2 身じたくの介護 3 移動の介護 4 食事の介護 5 入浴・清潔保持の介護 6 排泄の介護 7 睡眠の介護 8 終末期の介護 9 災害時における生活支援 10 福祉用具の意義 11 家事の介護 12 介護予防 (美容介護・口腔ケア)</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な介護技術を用いて、安全に援助できる。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 導入 生活支援技術 I を学ぶにあたって</td> <td style="width: 50%;">11 自立した移動とは</td> </tr> <tr> <td>2 生活支援の基本的な考え方</td> <td>12 自立に向けた移動・移乗の介護</td> </tr> <tr> <td>3 生活支援と介護過程</td> <td>13 移動・移乗における介護技術</td> </tr> <tr> <td>4 生活支援とチームアプローチ</td> <td>14 自立した食事とは</td> </tr> <tr> <td>5 自立した身じたくとは</td> <td>15 誤嚥・窒息の防止</td> </tr> <tr> <td>6 自立に向けた身じたくの介護</td> <td>16 脱水の防止</td> </tr> <tr> <td>7 身じたくの介護における多職種との連携</td> <td>17 食事のための道具・用具</td> </tr> <tr> <td>8 衣類の着脱介助</td> <td>18 食事の介護における他の職種との役割と協働</td> </tr> <tr> <td>9 衣類の着脱介助</td> <td>19 食事の介助</td> </tr> <tr> <td>10 衣類の着脱介助</td> <td>20 食事の介助</td> </tr> </table>						1 導入 生活支援技術 I を学ぶにあたって	11 自立した移動とは	2 生活支援の基本的な考え方	12 自立に向けた移動・移乗の介護	3 生活支援と介護過程	13 移動・移乗における介護技術	4 生活支援とチームアプローチ	14 自立した食事とは	5 自立した身じたくとは	15 誤嚥・窒息の防止	6 自立に向けた身じたくの介護	16 脱水の防止	7 身じたくの介護における多職種との連携	17 食事のための道具・用具	8 衣類の着脱介助	18 食事の介護における他の職種との役割と協働	9 衣類の着脱介助	19 食事の介助	10 衣類の着脱介助	20 食事の介助
1 導入 生活支援技術 I を学ぶにあたって	11 自立した移動とは																								
2 生活支援の基本的な考え方	12 自立に向けた移動・移乗の介護																								
3 生活支援と介護過程	13 移動・移乗における介護技術																								
4 生活支援とチームアプローチ	14 自立した食事とは																								
5 自立した身じたくとは	15 誤嚥・窒息の防止																								
6 自立に向けた身じたくの介護	16 脱水の防止																								
7 身じたくの介護における多職種との連携	17 食事のための道具・用具																								
8 衣類の着脱介助	18 食事の介護における他の職種との役割と協働																								
9 衣類の着脱介助	19 食事の介助																								
10 衣類の着脱介助	20 食事の介助																								
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。																						

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)																					
授業の回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4)	学年 1 年	必修・選択 必 修																						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を習得することが目的である</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 生活支援 2 身じたくの介護 3 移動の介護 4 食事の介護 5 入浴・清潔保持の介護 6 排泄の介護 7 睡眠の介護 8 終末期の介護 9 災害時における生活支援 10 福祉用具の意義 11 家事の介護 12 介護予防 (美容介護・口腔ケア)</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な介護技術を用いて、安全に援助できる。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">21 自立した入浴・清潔保持とは</td> <td style="width: 50%;">31 ポータブル介助</td> </tr> <tr> <td>22 自立に向けた入浴・清潔保持の介護</td> <td>32 差し込み便器介助</td> </tr> <tr> <td>23 入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働</td> <td>33 おむつ交換</td> </tr> <tr> <td>24 入浴の介助</td> <td>34 おむつ交換</td> </tr> <tr> <td>25 部分浴の介助</td> <td>35 休息・睡眠とは</td> </tr> <tr> <td>26 洗髪の介助</td> <td>36 休息・睡眠の介護</td> </tr> <tr> <td>27 清拭の介助</td> <td>37 休息・睡眠の介護における多職種との連携</td> </tr> <tr> <td>28 自立した排泄とは</td> <td>38 睡眠と薬</td> </tr> <tr> <td>29 自立に向けた排泄の介護</td> <td>39 ベットメイキング</td> </tr> <tr> <td>30 排泄の介護における多職種との連携</td> <td>40 ベットメイキング</td> </tr> </table>						21 自立した入浴・清潔保持とは	31 ポータブル介助	22 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	32 差し込み便器介助	23 入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働	33 おむつ交換	24 入浴の介助	34 おむつ交換	25 部分浴の介助	35 休息・睡眠とは	26 洗髪の介助	36 休息・睡眠の介護	27 清拭の介助	37 休息・睡眠の介護における多職種との連携	28 自立した排泄とは	38 睡眠と薬	29 自立に向けた排泄の介護	39 ベットメイキング	30 排泄の介護における多職種との連携	40 ベットメイキング
21 自立した入浴・清潔保持とは	31 ポータブル介助																								
22 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	32 差し込み便器介助																								
23 入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働	33 おむつ交換																								
24 入浴の介助	34 おむつ交換																								
25 部分浴の介助	35 休息・睡眠とは																								
26 洗髪の介助	36 休息・睡眠の介護																								
27 清拭の介助	37 休息・睡眠の介護における多職種との連携																								
28 自立した排泄とは	38 睡眠と薬																								
29 自立に向けた排泄の介護	39 ベットメイキング																								
30 排泄の介護における多職種との連携	40 ベットメイキング																								
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>																						

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)																					
授業の回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4)	学年 1 年	必修・選択 必 修																						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を習得することが目的である</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 生活支援 2 身じたくの介護 3 移動の介護 4 食事の介護 5 入浴・清潔保持の介護 6 排泄の介護 7 睡眠の介護 8 終末期の介護 9 災害時における生活支援 10 福祉用具の意義 11 家事の介護 12 介護予防 (美容介護・口腔ケア)</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な介護技術を用いて、安全に援助できる。</p>																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">41 ベットメイキング</td> <td style="width: 50%;">51 保存食品と加工食品</td> </tr> <tr> <td>42 人生の最終段階の意義と介護の役割</td> <td>52 食品衛生</td> </tr> <tr> <td>43 人生の最終段階における介護</td> <td>53 献立作成と栄養価計算</td> </tr> <tr> <td>44 人生の最終段階における介護</td> <td>54 調理実習 (高齢者のための調理)</td> </tr> <tr> <td>45 終末期の介護における他職種の役割と協働</td> <td>55 調理実習 (高齢者のための調理)</td> </tr> <tr> <td>46 災害時における生活支援</td> <td>56 調理実習 (障害者のための調理)</td> </tr> <tr> <td>47 災害時における生活支援</td> <td>57 美容介護の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>48 福祉用具の意義</td> <td>58 フェイスマッサージ</td> </tr> <tr> <td>49 福祉用具の意義</td> <td>59 メイク</td> </tr> <tr> <td>50 食生活の意義4</td> <td>60 口腔ケアの基礎知識</td> </tr> </table>						41 ベットメイキング	51 保存食品と加工食品	42 人生の最終段階の意義と介護の役割	52 食品衛生	43 人生の最終段階における介護	53 献立作成と栄養価計算	44 人生の最終段階における介護	54 調理実習 (高齢者のための調理)	45 終末期の介護における他職種の役割と協働	55 調理実習 (高齢者のための調理)	46 災害時における生活支援	56 調理実習 (障害者のための調理)	47 災害時における生活支援	57 美容介護の基礎知識	48 福祉用具の意義	58 フェイスマッサージ	49 福祉用具の意義	59 メイク	50 食生活の意義4	60 口腔ケアの基礎知識
41 ベットメイキング	51 保存食品と加工食品																								
42 人生の最終段階の意義と介護の役割	52 食品衛生																								
43 人生の最終段階における介護	53 献立作成と栄養価計算																								
44 人生の最終段階における介護	54 調理実習 (高齢者のための調理)																								
45 終末期の介護における他職種の役割と協働	55 調理実習 (高齢者のための調理)																								
46 災害時における生活支援	56 調理実習 (障害者のための調理)																								
47 災害時における生活支援	57 美容介護の基礎知識																								
48 福祉用具の意義	58 フェイスマッサージ																								
49 福祉用具の意義	59 メイク																								
50 食生活の意義4	60 口腔ケアの基礎知識																								
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>																						

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間 (6)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 肢体不自由に応じた介護 2 視覚障害に応じた生活支援技術 3 聴覚・言語障害に応じた生活支援技術 4 重複障害 (盲ろう) に応じた生活支援技術 5 内部障害 (心臓機能障害) に応じた生活支援技術 6 内部障害 (心臓機能障害) に応じた生活支援技術 7 内部障害 (呼吸器機能障害) に応じた生活支援技術 8 内部障害 (呼吸器機能障害) に応じた生活支援技術 9 内部障害 (腎臓機能障害) に応じた生活支援技術 10 内部障害 (腎臓機能障害) に応じた生活支援技術 11 内部障害 (膀胱・直腸・小腸機能障害) に応じた生活支援技術 12 内部障害 (膀胱・直腸・小腸機能障害) に応じた生活支援技術 13 内部障害 (HIVによる免疫機能障害) に応じた介護 14 内部障害 (肝機能障害) に応じた生活支援技術 15 内部障害 (肝機能障害) に応じた生活支援技術</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間 (6)	学年 2 年	必修・選択 必 修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>16 重症心身障害に応じた生活支援技術 17 重症心身障害に応じた生活支援技術 18 知的障害に応じた生活支援技術 19 知的障害に応じた生活支援技術 20 精神障害に応じた介護 21 精神障害に応じた介護 22 高次脳機能障害に応じた生活支援技術 23 高次脳機能障害に応じた生活支援技術 24 発達障害に応じた生活支援技術 25 発達障害に応じた生活支援技術 26 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に応じた介護 27 パーキンソン病に応じた介護 28 悪性関節リウマチに応じた介護 29 筋ジストロフィーに応じた介護 30 認知症の人に応じた生活支援技術</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間 (6)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>31 居住環境の整備の意義と目的 32 生活空間と介護 33 暮らしと環境問題 34 居住環境とアセスメントⅠ 35 居住環境とアセスメントⅡ 36 快適な居住空間とは 37 住まいの場における工夫・留意点Ⅰ 38 住まいの場における工夫・留意点Ⅱ 39 集団生活の場における工夫・留意点 40 集団生活の場における工夫・留意点 41 保健・医療関連職種 42 福祉関係職種 43 建築関係職種 44 他職種の役割と協働 45 まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間(6)	学年 2年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>46 被服生活の意義 47 被服の機能 48 被服の管理 (素材) 49 被服の管理 (洗濯) 50 被服の管理 (保管) 51 被服の管理 (アイロンがけ) I 52 被服の管理 (アイロンがけ) II 53 被服の管理 (裁縫) I 54 被服の管理 (裁縫) II 55 被服の管理 (裁縫) III 56 被服の皮膚衛生保持・管理 57 着やすく心地よい被服 58 高齢の人のための被服のデザイン・構成、色彩及び着脱の工夫 59 障害のある人のための被服のデザイン・構成、色彩及び着脱の工夫 60 まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間 (6)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>61 点字を学ぶにあたって 62 点字の基礎知識 63 点字の書き方、読み方 64 点字の表記 65 点字の書き方の実際 66 点字の書き方の実際 67 点字の書き方の実際 68 点字の書き方の実際 69 演習問題 70 演習問題 71 演習問題 72 演習問題 73 演習問題 74 演習問題 75 まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務 他)	
授業の回数 90回	時間数(単位数) 180時間 (6)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得・学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 2 障害に応じた生活支援技術 3 生活環境 4 被服生活 5 点字 6 手話</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1 介護を必要とする人の自立・自律が尊重できる。 2 適切な生活支援技術を用いて、安全に援助できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>76 手話を学ぶにあたって</p> <p>77 手話の基礎知識</p> <p>78 手話の実技 (つたえあってみましょう)</p> <p>79 手話の実技 (自己紹介しましょう: 名前や家族を紹介しましょう)</p> <p>80 手話の実技 (自己紹介しましょう: 趣味について話しましょう)</p> <p>81 手話の実技 (自己紹介しましょう: 数字を使ってみましょう)</p> <p>82 手話の実技 (自己紹介しましょう: 仕事について話しましょう)</p> <p>83 手話の実技 (自己紹介しましょう: あなたの家を紹介しましょう)</p> <p>84 手話の実技 (話しかけてみましょう: 一日・一ヶ月・一年のことを話しましょう)</p> <p>85 手話の実技 (話しかけてみましょう: 新年会のことを話しましょう)</p> <p>86 手話の実技 (話しかけてみましょう: 旅行のことを話しましょう)</p> <p>87 手話の実技 (話しかけてみましょう: 「あしたの予定は?・お元気ですか?」)</p> <p>88 手話の実技 (話しかけてみましょう: 「食事に行こう!」)</p> <p>89 手話の実技 (話しかけてみましょう: 「どうしたんですか?」)</p> <p>90 まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 手話奉仕員養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程 I		授業の種類 演 習		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1）	学年 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程の展開が他の科目で学習した知識や技術を統合して行われることを理解すると共に、介護過程展開の基本的知識を習得する学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 介護過程とは 2 介護過程の理解</p> <p>[授業修了時の達成課題（達成目標）]</p> <p>「こころとからだのしくみ」等で学んだ内容が「介護過程」において利用者の事実ととらえて情報として深める際に知識として活用される。あらゆる場面において利用者が求める支援を展開する際の基本技術こそが「生活支援技術」における学習内容であり、利用者の事実にあわせて応用・発展させて活用するものであることを理解できる授業である。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 介護過程の意義、目的 3 介護過程の全体像 4 介護過程と I C F 5 介護過程における事例検討・事例研究の必要性 6 倫理的配慮 7 介護福祉分野で使用する「計画」 8 介護過程の展開(アセスメント・介護計画の立案・介護の実施・評価) 9 アセスメント(情報収集・ I C Fモデルの活用) 10 アセスメント(解釈・関連づけ・統合化) 11 生活課題の明確化 12 介護計画の立案(介護目標の設定) 13 介護計画の立案(具体的支援内容・支援方法、医学モデル・社会モデル) 14 介護計画の実施 15 介護計画の評価 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新 介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 他			筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 60回	時間数 (単位数) 120時間 (4)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うとともに、介護サービス提供のためのチームアプローチについて理解する学習とする</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>1 介護過程の理解 2 利用者の特性に応じた介護過程の展開の実践的展開 3 介護過程とチームアプローチ 4 利用者の生活の介護過程の展開 5 発表 6 意見交換</p> <p>〔授業終了時の達成課題 (達成目標)〕</p> <p>介護過程が人間の思考過程として、事実を収集し、情報をして深め、課題や目標を設定し、それらを支えるための計画・実施・評価の過程を繰り返したどること、介護過程を経て導いた支援を実践するにあたり、支援が本人を中心とし自立を支援するものであるか、支援の理念に照らして評価・修正が必要であることを理解できる</p>					
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義(復習) 2 計画の立案(目標の設定) 3 計画の立案(具体的な支援内容・支援方法の決定) 4 計画の立案(介護計画の立案) 5 実施(実施のための準備) 6 実施(実施の際の留意点) 7 実施(実施状況の把握) 8 実施(実施の記録) 9 評価(評価の意義と目的) 10 評価(評価の内容) 11 評価(評価の方法) 12 評価(評価の留意点) 13 評価(計画修正の必要性の検討) 14 評価(研究的視点) 15 評価(評価と実施評価表の作成) 					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 他			〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験、報告書、授業態度等を総合評価し、 60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者(実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 60回	時間数 (単位数) 120時間 (4)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うとともに、介護サービス提供のためのチームアプローチについて理解する学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1 介護過程の理解 2 利用者の特性に応じた介護過程の展開の実践的展開 3 介護過程とチームアプローチ 4 利用者の生活の介護過程の展開 5 発表 6 意見交換</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)] 介護サービス計画に基づき、専門職者がそれぞれの専門性を活かしたアセスメントを経て、利用者のさまざまな側面を支援する計画を立案・実践していることを具体的な事例を通し、理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>16 ケアマネジメントの全体像 17 ケアマネジメントの理念・目的 18 ケアマネジメントと個別援助計画の関係性 19 チームアプローチの必要性 20 チームにおける介護福祉士の役割 21 専門職の視点 22 介護過程の実践的展開 23 アセスメントの実際 24 介護過程の実際 25 ケアマネジメントの全体像 26 ケアプランと個別援助計画の関係性 27 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 28 利用者のさまざまな生活と介護過程 29 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 30 その他・まとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 他			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、報告書、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の回数 60回	時間数 (単位数) 120時間 (4)	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習で展開した介護過程を系統的に整理し発表することで、把握した利用者の全体像と計画し実施した介護の客観的評価を行い、望ましい介護を追求して行く研究的態度を養う学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 介護過程の理解 2 利用者の特性に応じた介護過程の展開の実践的展開 3 介護過程とチームアプローチ 4 利用者の生活の介護過程の展開 5 発表 6 意見交換</p> <p>[授業修了時の達成課題 (達成目標)]</p> <p>学内での事例演習や実習施設における支援の場面において、展開される支援から介護技術のみを見て真似て覚えることや否定をするのではなく、利用者のアセスメントからその場面の支援に至った過程を理解し、自力でもできるようになる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>31 オリエンテーション、学習の意義 32 実習でのアセスメントの整理 33 実習でのアセスメントの整理と評価 34 実習での個別援助計画の目標設定の整理 35 実習での個別援助計画の目標設定の整理と評価 36 実習での個別援助計画の内容と援助法の整理 37 実習での個別援助計画の内容と援助法の整理と評価 38 実習での個別援助計画の展開と実際 39 実習での個別援助計画の展開と実際の評価 40 実習での個別援助計画の評価と考察Ⅰ 41 実習での介護過程全体の評価と考察Ⅱ 42 実習での介護過程全体の評価と考察Ⅲ 43 実習での介護過程全体の評価と考察Ⅳ 44 実習での介護過程全体の評価と考察Ⅴ 45 グループ担当教員の個別指導Ⅰ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 他			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、報告書、授業態度等を総合評価し、 60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 60回	時間数（単位数） 120時間（4）	学年 2年		必修・選択 必 修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>実習で展開した介護過程を系統的に整理し発表することで、把握した利用者の全体像と計画し実施した介護の客観的評価を行い、望ましい介護を追求して行く研究的態度を養う学習とする</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>1 介護過程の理解 2 利用者の特性に応じた介護過程の展開の実践的展開 3 介護過程とチームアプローチ 4 利用者の生活の介護過程の展開 5 発表 6 意見交換</p> <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕</p> <p>具体的な事例・支援を教員や実習施設スタッフとその背景や現在にいたる過程等から理解し、カンファレンス(中間反省等)で自分自身の考えに基づいて、理念に沿って支援や仲間にも共有できる意見等を発言すること。</p> <p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>46 グループ担当教員の個別指導Ⅱ 47 グループ担当教員の個別指導Ⅲ 48 グループ担当教員の個別指導Ⅳ 49 グループ担当教員の個別指導Ⅴ 50 グループ担当教員の個別指導Ⅵ 51 個別発表及び意見交換Ⅰ 52 個別発表及び意見交換Ⅱ 53 個別発表及び意見交換Ⅲ 54 個別発表及び意見交換Ⅳ 55 個別発表及び意見交換Ⅴ 56 個別発表及び意見交換Ⅵ 57 担当教員全員による指導Ⅰ 58 担当教員全員による指導Ⅱ 59 担当教員全員による指導Ⅲ 60 その他、まとめ</p>					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新・介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 他			〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験、報告書、授業態度等を総合評価し、 60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 I		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)											
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2)	学年 1 年		必修・選択 必 修											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実習の教育効果を上げるため、介護実習前の生活支援技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習期間中の学習計画の作成など個別の学習達成状況に応じた総合的な学習を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護総合演習で何を学ぶか</td> <td style="width: 50%;">2 介護実習で何を学ぶか</td> </tr> <tr> <td>3 介護実習準備、実習中・実習後の学び</td> <td>4 実習先の特徴、実習先での学び</td> </tr> <tr> <td>5 実習 I・II の展開</td> <td>6 介護総合演習の実際</td> </tr> </table> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護実習の必要性・重要性を理解する</td> <td style="width: 50%;">2 実習施設の理解ができる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">3 実習における自己の振り返りをする事により自分を高めていく。</td> </tr> </table>						1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか	3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び	5 実習 I・II の展開	6 介護総合演習の実際	1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる	3 実習における自己の振り返りをする事により自分を高めていく。	
1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか														
3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び														
5 実習 I・II の展開	6 介護総合演習の実際														
1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる														
3 実習における自己の振り返りをする事により自分を高めていく。															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護総合演習の位置づけ 2 介護総合演習の目的 3 実習先(施設)の特徴と学ぶべきポイント I 4 実習先(施設)の特徴と学ぶべきポイント II 5 介護実習の意義と目的 6 介護実習の種類 7 介護実習前の学びと、実習後の学びの活かし方 8 介護実習準備、実習中・実習後の学び 9 実習 I の展開 I (実習 I のねらいと実習モデル) 10 実習 I の展開 II (実習モデル①利用者との出会い、その暮らしを知る介護実習) 11 実習 I の展開 III (実習モデル②介護技術の実践を軸にした介護実習) 12 実習 I の展開 IV (実習モデル③家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習) 13 実習記録の書き方 I 14 実習記録の書き方 II 15 介護実習に係る書類作成 															
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 早引き介護用語ハンドブック・医学知識ハンドブック</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>												

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 演 習		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）											
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2）	学年 1 年		必修・選択 必 修											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実習の教育効果を上げるため、介護実習前の生活支援技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習期間中の学習計画の作成など個別の学習達成状況に応じた総合的な学習を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護総合演習で何を学ぶか</td> <td style="width: 50%;">2 介護実習で何を学ぶか</td> </tr> <tr> <td>3 介護実習準備、実習中・実習後の学び</td> <td>4 実習先の特徴、実習先での学び</td> </tr> <tr> <td>5 実習Ⅰ・Ⅱの展開</td> <td>6 介護総合演習の実際</td> </tr> </table> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護実習の必要性・重要性を理解する</td> <td style="width: 50%;">2 実習施設の理解ができる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">3 実習における自己の振り返りを行うことにより自分を高めていく。</td> </tr> </table>						1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか	3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び	5 実習Ⅰ・Ⅱの展開	6 介護総合演習の実際	1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる	3 実習における自己の振り返りを行うことにより自分を高めていく。	
1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか														
3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び														
5 実習Ⅰ・Ⅱの展開	6 介護総合演習の実際														
1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる														
3 実習における自己の振り返りを行うことにより自分を高めていく。															
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>16 介護実習の目的・目標</p> <p>17 教育課程と介護実習の体系</p> <p>18 介護実習生心得・態度等の実習における注意点</p> <p>19 介護実習Ⅰの実習施設の概要Ⅰ</p> <p>20 介護実習Ⅰの実習施設の概要Ⅱ</p> <p>21 介護実習Ⅰの履修内容（課題と課題達成の方法）</p> <p>22 介護実習記録の記入方法Ⅰ</p> <p>23 介護実習記録の記入方法Ⅱ</p> <p>24 介護実習記録の記入方法Ⅲ</p> <p>25 介護実習のための生活支援技術の確認Ⅰ</p> <p>26 介護実習のための生活支援技術の確認Ⅱ</p> <p>27 介護実習のための生活支援技術の確認Ⅲ</p> <p>28 介護実習Ⅰの報告会Ⅰ</p> <p>29 介護実習Ⅰの報告会Ⅱ</p> <p>30 その他、まとめ</p>															
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 早引き介護用語ハンドブック・医学知識ハンドブック</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>												

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)										
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2)	学年 2 年	必修・選択 必 修											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習期間中の学習計画の作成など個別の学習達成状況に応じた総合的な学習を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護総合演習で何を学ぶか</td> <td style="width: 50%;">2 介護実習で何を学ぶか</td> </tr> <tr> <td>3 介護実習準備、実習中・実習後の学び</td> <td>4 実習先の特徴、実習先での学び</td> </tr> <tr> <td>5 実習Ⅰ・Ⅱの展開</td> <td>6 介護総合演習の実際</td> </tr> </table> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護実習の必要性・重要性を理解する</td> <td style="width: 50%;">2 実習施設の理解ができる</td> </tr> <tr> <td colspan="2">3 実習における自己の振り返りをするにより自分を高めていく。</td> </tr> </table>					1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか	3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び	5 実習Ⅰ・Ⅱの展開	6 介護総合演習の実際	1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる	3 実習における自己の振り返りをするにより自分を高めていく。	
1 介護総合演習で何を学ぶか	2 介護実習で何を学ぶか													
3 介護実習準備、実習中・実習後の学び	4 実習先の特徴、実習先での学び													
5 実習Ⅰ・Ⅱの展開	6 介護総合演習の実際													
1 介護実習の必要性・重要性を理解する	2 実習施設の理解ができる													
3 実習における自己の振り返りをするにより自分を高めていく。														
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 介護総合演習Ⅱを学ぶにあたって 2 介護実習Ⅰ-2の目的、介護実習の必要性・重要性について 3 介護実習Ⅰ-2における実習課題・自己目標を明確化 4 実習施設Ⅰ-2の理解 5 介護実習Ⅰ-2に望むにあたっての実習生の心得 (態度・マナー) 6 介護実習Ⅰ-2の実習記録の書き方 7 介護実習Ⅰ-2に係る書類作成 8 介護実習Ⅰ-2記録の整理Ⅰ 9 介護実習Ⅰ-2記録の整理Ⅱ 10 介護実習Ⅰ-2記録の整理Ⅲ 11 介護実習Ⅰ-2の評価と整理Ⅰ 12 介護実習Ⅰ-2の評価と整理Ⅱ 13 介護実習Ⅰ-2の評価と整理Ⅲ 14 介護実習Ⅰ-2の実習グループの総括Ⅰ 15 介護実習Ⅰ-2の実習グループの総括Ⅱ 														
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 早引き介護用語ハンドブック・医学知識ハンドブック</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。</p>											

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I	授業の種類 実 習	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)	
授業の日数 1 4 日間	時間数 (単位数) 1 1 0 時間 (2)	学年 1 年	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 地域社会で暮らす利用者が施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活することについて理解する。その為には何が必要なのかという個別ケア実践の重要性を学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1 生活の場の理解 2 個別ケアの理解 3 コミュニケーションの実践 4 介護技術の確認 5 連携、協働の理解			
[授業修了時の達成課題 (達成目標)] 利用者個々の生活リズムを理解し、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
日時	実習場所	学生の課題	課題達成の方法
11 日間	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	実習施設の理解 利用者の理解 個別ケアの理解 生活全般の理解 援助内容の理解、確認 連携、協働の理解 安全対策の理解 自己の健康管理 自己覚知	オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 生活援助技術の見学 生活援助技術の実施 他職種の業務見学 各種会議への参加 施設の記録物見学 実習記録・反省会
3 日間	通所介護 通所リハビリテーション施設	通所の目的の確認 利用者の理解 援助内容の理解	コミュニケーション プログラムへの参加 実習記録・反省会
[使用テキスト・参考文献] 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習、実習要項、実習記録用紙、早引き介護用語ハンドブック、早引き介護のための医療知識ハンドブック 他		[単位認定の方法及び基準] 施設評価 50 点+巡回教員評価 50 点	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I-2		授業の種類 実 習		授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)													
授業の日数 17日間	時間数 (単位数) 130時間 (3)	学年 2 年		必修・選択 必 修													
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 生活の場の理解 2 個別ケアの理解 3 コミュニケーションの実践 4 介護技術の確認 5 連携、協働の理解</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)]</p> <p>利用者個々の生活リズムを理解し、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">日時</th> <th style="width: 25%;">実習場所</th> <th style="width: 35%;">学生の課題</th> <th style="width: 30%;">課題達成の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">15日間</td> <td>身体障害者施設 重症心身障害施設 知的障害者施設 救護施設 介護老人保健施設</td> <td>実習施設の理解 利用者の理解 (身体、心理、生活、社会) 援助内容の理解 (根拠適応、確認) 活動向上の理解 連携、協働の理解 安全対策の理解 自己の健康管理 自己覚知</td> <td>オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 生活援助技術の見学 生活援助技術の実施 行事やレクへの参加 他職種の業務見学 各種会議への参加 施設の記録物見学 実習記録・反省会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2日間</td> <td>訪問介護事業所</td> <td>訪問介護の目的確認 利用者の理解 援助内容の理解</td> <td>コミュニケーション プログラムへの参加 実習記録・反省会</td> </tr> </tbody> </table>						日時	実習場所	学生の課題	課題達成の方法	15日間	身体障害者施設 重症心身障害施設 知的障害者施設 救護施設 介護老人保健施設	実習施設の理解 利用者の理解 (身体、心理、生活、社会) 援助内容の理解 (根拠適応、確認) 活動向上の理解 連携、協働の理解 安全対策の理解 自己の健康管理 自己覚知	オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 生活援助技術の見学 生活援助技術の実施 行事やレクへの参加 他職種の業務見学 各種会議への参加 施設の記録物見学 実習記録・反省会	2日間	訪問介護事業所	訪問介護の目的確認 利用者の理解 援助内容の理解	コミュニケーション プログラムへの参加 実習記録・反省会
日時	実習場所	学生の課題	課題達成の方法														
15日間	身体障害者施設 重症心身障害施設 知的障害者施設 救護施設 介護老人保健施設	実習施設の理解 利用者の理解 (身体、心理、生活、社会) 援助内容の理解 (根拠適応、確認) 活動向上の理解 連携、協働の理解 安全対策の理解 自己の健康管理 自己覚知	オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 生活援助技術の見学 生活援助技術の実施 行事やレクへの参加 他職種の業務見学 各種会議への参加 施設の記録物見学 実習記録・反省会														
2日間	訪問介護事業所	訪問介護の目的確認 利用者の理解 援助内容の理解	コミュニケーション プログラムへの参加 実習記録・反省会														
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習、実習要項、実習記録用紙、早引き介護用語ハトブック、早引き介護のための医療知識ハトブック 他</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 施設評価 50点+巡回教員評価 50点</p>														

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) <p style="text-align: center;">介護実習Ⅱ</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">実 習</p>	授業担当者 (実務経験/福祉施設勤務)									
授業の日数 <p style="text-align: center;">27日間</p>	時間数 (単位数) <p style="text-align: center;">210時間 (5)</p>	学年 <p style="text-align: center;">2 年</p>	必修・選択 <p style="text-align: center;">必 修</p>								
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施、評価、修正という介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>1 介護計画の立案 (利用者選択、情報収集、アセスメント、介護ニーズの明確化、計画立案) 2 介護計画の実施 3 実施の評価、修正</p> <p>〔授業修了時の達成課題 (達成目標)〕</p> <p>介護過程の展開を通し個別ケアが行える実践力を養う</p>											
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">日時</th> <th style="width: 20%;">実習場所</th> <th style="width: 40%;">学生の課題</th> <th style="width: 30%;">課題達成の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">27日間</td> <td style="vertical-align: top;">介護老人福祉施設 介護老人保健施設</td> <td style="vertical-align: top;"> 実習施設の理解 介護過程の展開 ①介護計画立案 ・利用者選択 ・情報収集 ・アセスメント ・介護ニーズの明確化 ・計画立案 ②計画実施 ③評価、修正 自己の健康管理 自己覚知 </td> <td style="vertical-align: top;"> オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 観察 生活援助の実施 各種会議への参加 各種記録物の参照 介護計画表の作成 介護計画内容の確認 介護計画内容の実施 介護計画内容の評価、介護計画内容の修正 実習記録、反省会 </td> </tr> </tbody> </table>				日時	実習場所	学生の課題	課題達成の方法	27日間	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	実習施設の理解 介護過程の展開 ①介護計画立案 ・利用者選択 ・情報収集 ・アセスメント ・介護ニーズの明確化 ・計画立案 ②計画実施 ③評価、修正 自己の健康管理 自己覚知	オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 観察 生活援助の実施 各種会議への参加 各種記録物の参照 介護計画表の作成 介護計画内容の確認 介護計画内容の実施 介護計画内容の評価、介護計画内容の修正 実習記録、反省会
日時	実習場所	学生の課題	課題達成の方法								
27日間	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	実習施設の理解 介護過程の展開 ①介護計画立案 ・利用者選択 ・情報収集 ・アセスメント ・介護ニーズの明確化 ・計画立案 ②計画実施 ③評価、修正 自己の健康管理 自己覚知	オリエンテーション 申し送りへの参加 コミュニケーション 観察 生活援助の実施 各種会議への参加 各種記録物の参照 介護計画表の作成 介護計画内容の確認 介護計画内容の実施 介護計画内容の評価、介護計画内容の修正 実習記録、反省会								
〔使用テキスト・参考文献〕 最新第2版 介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習、実習要項、実習記録用紙、早引き介護用語ハンドブック、早引き介護のための医療知識ハンドブック 他		〔単位認定の方法及び基準〕 施設評価 50点+巡回教員評価 50点									

3 こころとからだのしくみ

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解 I		授業の種類 講 義		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2）	学年 1年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1 障害の概念と障害者福祉の基本的理念 2 障害別の基本的理解と特性に応じた支援 I</p> <p>[授業終了時の達成課題（達成目標）] 障害のある人の心身や身体機能等に関する基礎的知識ができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 障害のとらえ方 3 障害者の概数 4 障害者の定義 5 障害者福祉の基本概念 6 障害者福祉に関連する制度 7 障害者福祉制度と介護保険制度 8 障害のある人の心理 9 肢体不自由（運動機能障害） 10 視覚障害 11 聴覚・言語障害 12 重複障害 13 内部障害 14 重症心身障害 15 その他・まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 14 第2版 障害の理解			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講 義		授業担当者（実務経験/福祉施設勤務）	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2）	学年 2年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 障害の基礎的理解と特徴におうじた支援Ⅱ 2 連携と協働 3 家族への支援</p> <p>[授業終了時の達成課題（達成目標）]</p> <p>障害のある人の心身や身体機能等に関する基礎的知識の理解や地域や家族を含めた生活支援ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 知的障害とその原因とは 3 知的障害の特性に応じた支援 4 精神障害とその特性の理解 5 精神障害の特性に応じた支援 6 高次機能障害とその特性の理解 7 高次機能障害の特性に応じた支援 8 発達障害とその特性の理解 9 発達障害の特性に応じた支援 10 難病とは 11 地域サポート体制 12 チームアプローチとは 13 家族への支援 14 家族の介護力と評価と介護負担の軽減 15 その他・まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 14 第2版 障害の理解			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころのしくみ		授業の種類 講 義	授業担当者 (実務経験/相談機関勤務)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2)	学年 1 年	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 介護実践の根拠となる人間の心理について理解する学習とする [授業全体の内容の概要] こころのしくみの理解 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] 介護実践の根拠としてのこころのしくみが理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 オリエンテーション、学習の意義 2 人間の基本的欲求の理解 3 人間の社会的欲求の理解 4 自己概念に影響する要因 5 自立への意欲と自己概念 6 自己実現と尊厳、生きがい 7 「こころ」とは 8 脳のしくみ 9 認知のしくみ 10 学習・記憶・思考のしくみ 11 感情のしくみ 12 情緒のしくみ 13 意欲と動機づけのしくみ 14 適応のしくみ 15 その他、まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) からだのしくみ		授業の種類 講 義	授業担当者 (実務経験/病院勤務 他)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2)	学年 1 年	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造について理解する学習とする</p> <p>[授業全体の内容の概要] からだのしくみの理解</p> <p>[授業終了時の達成課題 (達成目標)] 介護行為の根拠としてのからだのしくみが理解できる</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学習の意義 2 健康の定義、生命の維持、 3 恒常のしくみ (ホメオスタシス) 生命の兆候、バイタルサイン 4 からだの部位の名称と役割 5 神経系の名称とはたらき 6 骨格系の名称とはたらき 7 消化器系の名称とはたらき 8 循環器系の名称とはたらき 9 内分泌系の名称とはたらき 10 呼吸器系の名称とはたらき 11 泌尿器系の名称とはたらき 12 感覚器系の名称とはたらき 13 ボディメカニクス 14 加齢による機能低下とからだの動き 15 その他、まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ		授業の種類 講 義	授業担当者（実務経験/病院勤務）																															
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（4）	学年 1年	必修・選択 必 修																															
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の心理や構造・機能及び介護サービスの提供における安全への留意点などについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1 移動に関連したこころとからだしくみ 2 身じたくに関連したこころとからだしくみ 3 食事に関連したこころとからだしくみ 4 排泄に関連したこころとからだしくみ 5 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 6 休息・睡眠に関連したこころとからだしくみ 7 人生の最後段階のケアに関連したこころとからだしくみ</p> <p>[授業終了時の達成課題（達成目標）] 生活場面に関連したこころとからだのしくみ及び心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的知識を理解する。また、人生の最後段階「死」にゆく人のこころとからだのしくみを理解する。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 オリエンテーション、学習の意義</td> <td style="width: 50%;">16 排泄での観察ポイント</td> </tr> <tr> <td>2 移動のしくみ</td> <td>17 休息・睡眠のしくみ</td> </tr> <tr> <td>3 心身機能の低下が移動に及ぼす影響</td> <td>18 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>4 移動での観察ポイント</td> <td>19 休息・睡眠の観察のポイント</td> </tr> <tr> <td>5 身じたくのしくみ</td> <td>20 「死」のとらえ方</td> </tr> <tr> <td>6 心身の機能低下が身じたく及ぼす影響</td> <td>21 看取りにかかわる人の価値観</td> </tr> <tr> <td>7 身じたく移動での観察ポイント</td> <td>22 終末期（ターミナル期）</td> </tr> <tr> <td>8 食事のしくみ</td> <td>23 「死」に対するこころの変化</td> </tr> <tr> <td>9 心身の機能低下が食事に及ぼす影響</td> <td>24 「死」を受容する段階</td> </tr> <tr> <td>10 食事での観察ポイント</td> <td>25 家族が「死」を受容できるための支援</td> </tr> <tr> <td>11 入浴・清潔保持のしくみ</td> <td>26 終末期から危篤状態、死後のからだの理解</td> </tr> <tr> <td>12 心身機能の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</td> <td>27 呼吸困難時の医療と介護の連携</td> </tr> <tr> <td>13 入浴・清潔保持での観察ポイント</td> <td>28 疼痛緩和時の医療と介護の連携</td> </tr> <tr> <td>14 排泄のしくみ</td> <td>29 多職種との連携</td> </tr> <tr> <td>15 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</td> <td>30 その他、まとめ</td> </tr> </table>					1 オリエンテーション、学習の意義	16 排泄での観察ポイント	2 移動のしくみ	17 休息・睡眠のしくみ	3 心身機能の低下が移動に及ぼす影響	18 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	4 移動での観察ポイント	19 休息・睡眠の観察のポイント	5 身じたくのしくみ	20 「死」のとらえ方	6 心身の機能低下が身じたく及ぼす影響	21 看取りにかかわる人の価値観	7 身じたく移動での観察ポイント	22 終末期（ターミナル期）	8 食事のしくみ	23 「死」に対するこころの変化	9 心身の機能低下が食事に及ぼす影響	24 「死」を受容する段階	10 食事での観察ポイント	25 家族が「死」を受容できるための支援	11 入浴・清潔保持のしくみ	26 終末期から危篤状態、死後のからだの理解	12 心身機能の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	27 呼吸困難時の医療と介護の連携	13 入浴・清潔保持での観察ポイント	28 疼痛緩和時の医療と介護の連携	14 排泄のしくみ	29 多職種との連携	15 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	30 その他、まとめ
1 オリエンテーション、学習の意義	16 排泄での観察ポイント																																	
2 移動のしくみ	17 休息・睡眠のしくみ																																	
3 心身機能の低下が移動に及ぼす影響	18 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響																																	
4 移動での観察ポイント	19 休息・睡眠の観察のポイント																																	
5 身じたくのしくみ	20 「死」のとらえ方																																	
6 心身の機能低下が身じたく及ぼす影響	21 看取りにかかわる人の価値観																																	
7 身じたく移動での観察ポイント	22 終末期（ターミナル期）																																	
8 食事のしくみ	23 「死」に対するこころの変化																																	
9 心身の機能低下が食事に及ぼす影響	24 「死」を受容する段階																																	
10 食事での観察ポイント	25 家族が「死」を受容できるための支援																																	
11 入浴・清潔保持のしくみ	26 終末期から危篤状態、死後のからだの理解																																	
12 心身機能の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	27 呼吸困難時の医療と介護の連携																																	
13 入浴・清潔保持での観察ポイント	28 疼痛緩和時の医療と介護の連携																																	
14 排泄のしくみ	29 多職種との連携																																	
15 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	30 その他、まとめ																																	
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。																																

4 医療的ケア

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケアⅡ		授業の種類 講 義		授業担当者 (実務経験/病院勤務)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2)	学年 2年		必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引と経管栄養並びに救急蘇生法についての医療的知識と実施手順を学習・習得する。				
[授業全体の内容の概要] 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎的知識と実施手順について理解する。 2 高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎的知識と実施手順について理解する。 3 救急蘇生法の基礎的知識と実施手順について理解する。				
[授業終了時の達成課題 (達成目標)] 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引と経管栄養並びに救急蘇生法の概要と実施手順について理解し、が安全そして適切に実施できるようにする。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 オリエンテーション、学習の意義 2 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論Ⅰ 3 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論Ⅱ 4 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説Ⅰ 5 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説Ⅱ 6 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論Ⅰ 7 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論Ⅱ 8 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説Ⅰ 9 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説Ⅱ 10 救急蘇生法の手引き 11 救急蘇生法の実施手順解説 12 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の喀痰吸引の概要・ケア実施手順解説 13 胃ろうまたは腸ろう経管栄養の概要・ケア実施手順解説 14 経鼻経管栄養の概論・ケア実施手順解説 15 救急蘇生法・ケア実施手順解説				
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 15 第2版 医療的ケア			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅢ		授業の種類 演 習		授業担当者（実務経験/病院勤務）	
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1）	学年 2 年		必修・選択 必 修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療的ケアⅠ・Ⅱで習得した医療的知識を理解し、安全そして適切に喀痰吸引、経管栄養及び救急蘇生法が実施できるようにする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喀痰吸引については、口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ5回以上の演習を行う。 2 経管栄養については、胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻5回以上の演習を行う。 3 救急蘇生法については、1回以上の演習を行う。 <p>実施手順通りに実施できれば合格。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（達成目標）〕</p> <p>喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法の医療的知識を理解し、安全そして適切に実施手順に従いできるようにする。</p>					
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引のケア実施の手引きⅠ 2 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引のケア実施の手引きⅡ 3 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引のケア実施の手引きⅢ 4 気管カニューレ内部の喀痰吸引のケア実施の手引きⅠ 5 気管カニューレ内部の喀痰吸引のケア実施の手引きⅡ 6 気管カニューレ内部の喀痰吸引のケア実施の手引きⅢ 7 胃ろうまたは腸ろう経管栄養のケア実施の手引きⅠ 8 胃ろうまたは腸ろう経管栄養のケア実施の手引きⅡ 9 胃ろうまたは腸ろう経管栄養のケア実施の手引きⅢ 10 経鼻経管栄養のケア実施の手引きⅠ 11 経鼻経管栄養のケア実施の手引きⅡ 12 経鼻経管栄養のケア実施の手引きⅢ 13 救急蘇生法のケア実施の手引きⅠ 14 救急蘇生法のケア実施の手引きⅡ 15 救急蘇生法のケア実施の手引きⅢ 					
〔使用テキスト・参考文献〕 最新 介護福祉士養成講座 15 第2版 医療的ケア			〔単位認定の方法及び基準〕 筆記試験、課題、授業態度等を総合評価し、60点以上を単位認定とする。		